

令和5年度第3学期終業式 式辞

3学期の最終日にあたり、一言、あいさつを述べさせていただきます。

皆さん、どのような3学期だったでしょうか。学年・年次の締めくくりとして、自分自身で納得のいく3学期だったでしょうか。

今月1日、16期生74名が卒業されましたね。皆さんにも出席いただけた、立派な卒業式で、中城稀帆さんの心のこもった送辞を受け、皆、堂々と、本校の誇りを胸に巣立っていかれました…人生の大きな「節目」を迎えられたわけです。必ずや、本校の6年間で獲得した総合的人間力・エネルギーでビッグバン、更に成長し、この変化激しく予測困難な時代を、心豊かに生き抜き、世のため人のために貢献されていくことと確信しています。

さて、皆さんは、4月に学年が一つ上がり、新たなステージが始まります。やはり、大きな節目を迎えているということです。

この「節目」が大切なんですね…すくすく育つ「竹」…この写真を見てください…「節」をもち、どんどんと成長しています。また竹は、このしっかりとした「節」を持つから、激しい風雨にさらされても、しなやかに対応し、折れてしまうことがないのです。見事ですね。生存戦略ですね。

明日からのお休み、16日間、各自、一度頭の中で、これまでの学校生活をしっかりと振り返り整理し、自らの進路目標も再確認し、次に向かう準備期間として充実させ、学年・年次変わりの、しっかりとした「節」を作ってください。

そうすれば、その後は、必ず大きく成長し且つしなやかな柔軟性・対応力が身に付くこと間違いありません。

加えて、先日の卒業式では、時間短縮のため、猛スピードで式辞を述べましたので、聞き取りにくかった人もいたことだと思いますが…本校ホームページの「校長室」の中に、全ての式辞を入れてありますので、また見てください。授業の中で、卒業式の式辞の内容を取り扱ってくれた先生もおられたようですね…その中で、とりわけ「命」の大切さに触れさせていただきました。また、2年生から5年次の皆さんは、先週の性教育講演会で、「命」の重さを確認しましたね。

どうか皆さん、休み中も事故等に気を付けて、決して自分だけのものではない、毎日、多くの動植物の「命」をいただくことで維持できている、そして、先祖代々、脈々と引き継がれバトンされ、現時点の最終ランナーである自らの「命」を、大切に大切にしてお過ごしください。

すべては、「命」あつてのことです。悩ましいことを一人で抱え込む必要は

ありません。抱えきれないことがあれば、保護者の方、先生、また、兵庫県警のサイバー担当の本田警部補のお話にもあったとおり、遠慮無く、いろいろな相談窓口を利用してください。

それでは、4月8日の始業式、元気な笑顔でここに集い、新年度がスタートできることを楽しみに、以上、令和5年度第3学期終業式の式辞とします。

私も、皆さんと出会えて1年、大変充実した時間でした。

ありがとうございました。4月からも、よろしくお願いします。

令和6年3月22日

兵庫県立芦屋国際中等教育学校長 川崎 芳徳